

人づくり・活動づくり、そして地域づくりを拓く！

「コミュニティソーシャルワーク実践に向けた協働事業」報告書発行

本会では、今日のコミュニティソーシャルワークの在り方を検証するとともに、地域福祉の総合的展開—人づくり・活動づくり・地域づくり—を探究するために、大和市社協、大井町社協と（N）よこはま地域福祉研究センターの4者協働で「コミュニティソーシャルワーク実践に向けた協働事業」を実施しました。

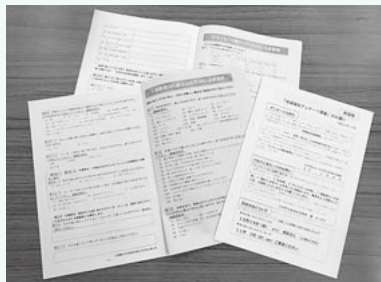
大和市、大井町の住民にコアメンバーとなっていただき、アセスメント（※）目標を設定し、各地域の強み・弱みを知るための調査を行いました。

《大和市》

鶴間地区において地域アセスメントを実施しました。



大和市・鶴間ちっくフォーラムにて作成した「社会資源マップ」と「実践事例集」。必要な情報が簡潔に伝わるよう工夫している



大井町・コアメンバー会議にて作成したアンケート調査票。対象別に色分けしてわかりやすくしている

（※）アセスメント…地域支援として必要な活動実践やその目標設定につなげることを目的に地域社会の状況・特性や地域住民の想い・要望を把握し、ニーズを明確にするために実施するもの

ントを実施しました。コアメンバーによる「鶴街つくフォーラム」を開催し、「社会資源情報分析チーム」と「介護予防ニーズ分析チーム」に分かれて、それぞれに既存調査の分析評価及び自治会長・地区民生委員児童委員への生活支援に関する実態調査と、子育て支援者・障害者支援者へのテーマを絞ったグループインタビューを行いました。これらの成果を地区住民に伝え、今後の活動を考えるためのミニシンポジウムを実施し、地域住民や関係者で情報を共有しました。また、地区住民が社会資源を知るための「社会資源マップ」「実践事例集」を作成しており、今

後は住民に配布し、活用する中で出た声を反映し、バージョンアップしていく計画です。コアメンバーからは、「今後もこの取り組みを続けていきたい」と意欲が湧いています。

《大井町》

町内14地区のうち3地区986世帯へのアンケート調査及び民生委員児童委員協議会等3団体へのグループインタビューを行いました。アンケート調査ではコアメンバー会議で丁寧に調査票を作成し、調査票配布や回収、結果入力等もコアメンバーが積極的に力を発揮しました。約70%の高い回収率で自由記述も多く、身近な地域のリアルな声をアンケートから読み取る中で「地域を自分たちの手でつくっていかなくてはならない」という強い思いがコアメンバーには生まれています。このアセスメント成果を受けて、平成29年度に着手する第3次地域福祉プラン策定へ反映させていく予定です。

また、アドバイザーとして、大和市社協には聖徳大学教授の豊田宗裕さん、大井町社協には田園調布学園大学講師の小平隆雄さんに関わっていただいたことで、専門



作成した報告書「コミュニティソーシャルワーカーのためのアセスメント」。ワーカーに焦点を当てた軌跡を見ることができる

的な視点からの助言も得ることができました。何より、住民がコアメンバーに入り、目標を共有して地域アセスメントを実施したことで、新たな住民同士・異分野での活動者同士のつながりを生み、また、生活圏域での地域課題を再発見し、住民自身による地域づくりに向けた機運が高まりました。これから今後の取り組みにつながるよう、各社協とも展望を描いているところです。

これらの軌跡を「コミュニティソーシャルワーカーのためのアセスメント」としてまとめました。本会HPからもダウンロードできますので、地域アセスメントを進める際の参考としてご利用ください。

（地域福祉推進担当）